

「その名はインマヌエルと呼ばれる。」
それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

マタイの福音書1章23節

新約聖書の冒頭でもあるマタイ1章の書き出しは系図です。それはイスラエル人の祖アブラハムの系図であり、イスラエル王国の偉大な王ダビデの系図でもあります。或いはその系図には有名無名の人々が名を連ね、彼ら一人ひとりの系図でもあります。しかし聖書はこれは「イエス・キリストの系図」(1)といます。それは神の子イエス・キリストが人間の人生に入ってからられたという事です。ヨハネはキリストが「私たちの間に住まれた」(ヨハネ1章14節)と語りますが、マタイもキリストが人々の中に来られたと系図から指し示しています。

系図に名を連ねた人々は良い評判の人もいれば、イスラエル最悪の王と言われたマナセのように罪を重ねた人もいます。しかし程度の差こそあれ、誰もが神の前には罪人です。アブラハムもダビデも罪を犯した悩める罪人でした。その罪人と共に生きるためにイエス様はこの世に来られたのです。彼らの人生を聖書で追うと、繰り返し語られた言葉があることに気づきます。それは「恐れるな」(20)と「神は私たちとともにおられる」(23)です。アブラハムやイサクは「恐れるな」(創世記15章1節、26章24節)との声を聞き、ヤコブは「わたし

はあなたとともにいる」(創世記28章15節)と聞きました。神は罪の世界で悩み苦しむ人々に、常に語っておられるのです。「恐れるな」「わたしはあなたとともにいる」と。イエス様が世に来られたのは、神が私たちの人生に関わっておられることを示すためです。そして、罪の世に悩む私たちに「恐れるな」「わたしはあなたとともにいる」と今も語っておられます。その証しとして、マタイの福音書は同じメッセージで締めくくられています。

「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」(28章20節)

「神が私たちとともにいる」これがマタイの福音書のメッセージであり、このメッセージを確認する場所が教会であるのです。

・ 4 / 18 礼拝出席者数報告

第1礼拝 27名

第2礼拝 33名

小学科礼拝 小2名 中高8名

小学科は3月に卒業生を送る一方で4月に新人生がなかったため、現在は礼拝出席者もより少なくなりました。ホザナ会(中学生)は小学科からの持ち上がりに加えて玉川聖学院の新人生も数名迎えて出席者が多くなっています。

若い世代と導き手であるスタッフのためにお祈りください。

・ 荻野家は今週、シオン館へ転居します。

・ 次週、5月2日の礼拝説教は穂谷牧師が担当します。4月より蒲田教会に着任し、コロナ禍もあり落ち着かない中ではありますが、穂谷牧師の今後の働きのためにお祈りください。

■ 5月の礼拝説教の予定

2日 穂谷牧師 主の祈り

(マタイ6章)

9日 荻野牧師 母の日記念礼拝

16日 荻野牧師 マタイ2章

23日 石田牧師 ペンテコステ礼拝

(荻野牧師 主任牧師就任式)

30日 荻野牧師 マタイ3章

■ 本日の配布物

・ 5月祈祷カレンダー

・ OMFニュースレター

・ 3月会計報告

